

音読・読書に関する Q & A

読めない漢字があって、音読するのに時間が掛かるのですが…。

教科書の音読をすると、言葉の使い方を覚えることができ、読解力も向上します。読めない漢字にフリガナをつけたり、大人と一緒に音読したりしましょう。

読書をしようとしませんが…。

本を読み聞かせてはどうでしょう。大人も一緒に本を読んだり、図書館や書店に行ったりするのも効果的です。マンガで分かるシリーズや文字の少ない絵本など、読書を楽しむことから始めてみましょう。

宿題に時間がかかり、読書の時間が取れません。文字を書き直すことが多くて悩んでいます。

指の運動をしてみましょう。

1鉛筆を5本の指で回したり、上下に移動させたりする。

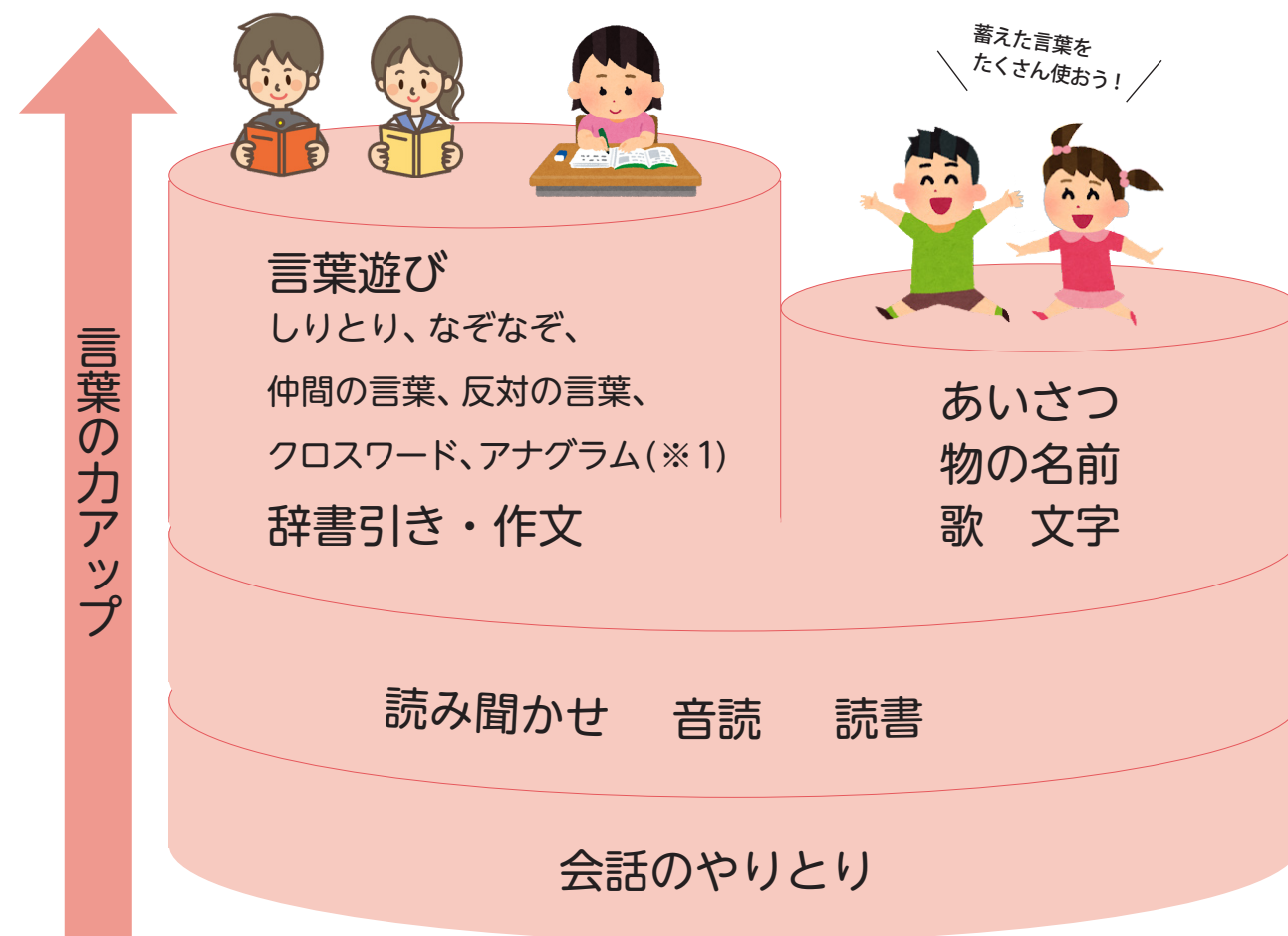
2消しゴムを小指・薬指で握ったまま鉛筆で書く。

※本人に合う手立てを見極めることが大切です。読み書きなどに時間がかかり過ぎるときは、学校へ相談を。

言葉を育てる

人とのコミュニケーションを図るなど、生きるために必要な言葉の力。その力の土台となるのが「会話」「読書」「音読」などです。新学期に向けて、家庭でもお子さんと一緒に言葉の力を育ててみませんか。

問 学校教育課学校教育係
☎ 985-4134
子育て・健康課健康増進係
☎ 985-4118
子育て・健康課子育て支援係
☎ 985-4189



※1 「コウエンノキ (公園の木)」と「キンコノウエ (金庫の上)」など単語や文の中の文字を入れ替えるもの

読み聞かせは、お子さんと接する時間が少なくなりがちでも距離を縮めるチャンスになります。まずは、一緒に絵本を選ぶところから始めてみませんか。

松前町ふるさとライブラリーに
お越しください！

【開館時間】 9時30分～19時
※ 休館情報は、広報まさきお役立ちカレンダーで確認を ☎ 985-4140

絵本なら文章も少なく、短時間で読み切れるので気軽に取り組みます。本を選ぶのに迷ったら、図書館に相談するのも一つの方法です。

▼まずは絵本を選ぶ

本に興味を持たせるには、「何かな？何かな？」「これなんなんだ？」「これすごーい！」「きれいねー」などの声掛けが効果的です。大人が大げさに感動することで本がすてきなものの、魅力あるものだという印象が残ります。

▼興味を持たせる声掛けを

すぐに立ち歩きや他のおもちゃで遊び始めるお子さんも、実は遊びながらしっかりと話を聞いています。そんなときは形にこだわらず、自由な姿勢で聞かせましょう。



読み聞かせをするときは、同じ目線で本を見るように意識しましょう。抱っこできる年齢のお子さんなら膝に乗せて、大きいお子さんなら横に座らせて読むと、お家の人にぴたっとくっついて愛情も伝わります。お家の人に読んでもらうことがお子さんにとっては一番うれしいことです。ぜひ、実践してみてください。

▼同じ目線を意識して

「読み聞かせ」に関する疑問を解消するため、小学校の読み聞かせボランティアさんにお話を聞きました。

「この本読んでー」が聞きたくて